



平成22年11月8日

各 位

会 社 名 株式会社細田工務店  
 代表者名 代表取締役社長 阿部 憲一  
 (JASDAQ・コード1906)  
 問合せ先 取締役総務部長 山口 匠  
 役職・氏名  
 電 話 03-3220-1111

## 平成23年3月期業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成22年5月17日付「平成22年3月期決算短信」において発表いたしました平成23年3月期（平成22年4月1日～平成23年3月31日）の業績予想及び配当予想を下記のとおり修正いたします。

## 1. 平成23年3月期第2四半期連結累計期間 連結業績予想の修正

(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

(金額の単位:百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	8,500	135	△174	△184	△11円54銭
今回発表予想(B)	8,294	116	△78	△128	△8円03銭
増減額(B-A)	△206	△19	96	56	—
増減率(%)	△2.4	△14.1	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年3月期第2四半期)	12,004	△77	△432	△399	△25円08銭

## 2. 平成23年3月期第2四半期累計期間 個別業績予想の修正

(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

(金額の単位:百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	8,200	160	△140	△147	△9円22銭
今回発表予想(B)	8,004	104	△87	△126	△7円90銭
増減額(B-A)	△196	△56	53	21	—
増減率(%)	△2.4	△35.0	—	—	—

## 3. 平成23年3月期第2四半期累計期間業績予想修正の理由

&lt;個別&gt;

当第2四半期累計期間の売上高は、当社が主力とする戸建分譲事業では、よりエンドユーザーの要望・期待に応えるために、建売分譲からデザイン・設備等の選択機会と幅を広げた販売方法「BY-CONCEPT」を強化したこと、収益性の確保を重要視したこと等により、期間内での販売棟数が計画より減少し、売上高も900百万円減少する見込みではありますが、収益不動産事業につきましては、低収益性物件の早期在庫圧縮に努め、下期に売却を予定していた物件を上期中に売却することができたため、計画を800百万円上回る見込みであります。また、個人受注では、他社との競合も激しくなっており、売上棟数が計画より減少したことから140百万円少なくなりましたが、既存ユーザ

一への全社的な訪問活動とニーズに対するきめ細やかな対応により、リフォーム事業においては計画を80百万円上回る見込みであります。

以上より、全社売上高におきましては、前回予想8,200百万円に対し8,004百万円と△196百万円の差異となる見込みであります。

利益面につきましては、戸建分譲事業で販売棟数が減少したものの、利益率は改善し向上いたしました。また、引き続きコストの低減や販売費及び一般管理費等の経費削減に努めてまいりました。しかしながらその一方で、有利子負債圧縮を図るための収益不動産売却による損失（110百万円）や個人受注部門の利益の減少（30百万円）等の影響により、営業利益は160百万円に対し104百万円と△56百万円の差異となる見込みであります。

一方、経常利益につきましては、有利子負債の圧縮により営業外費用の軽減が図られたことから、△140百万円に対し△87百万円と53百万円の差異となる見込みであります。

また、四半期純利益につきましては、△147百万円に対し△126百万円と21百万円の差異となる見込みであります。

<連結>

主に連結財務諸表提出会社（当社）の業績予想の修正によるものです。

#### 4. 平成23年3月期通期 連結業績予想の修正

（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	20,900	1,020	410	550	34円50銭
今回発表予想(B)	19,600	730	253	176	11円04銭
増減額(B-A)	△1,300	△290	△157	△374	—
増減率(%)	△6.2	△28.4	△38.3	△68.0	—
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期通期)	25,036	933	314	278	17円49銭

#### 5. 平成23年3月期通期 個別業績予想の修正

（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	20,200	1,000	400	546	34円25銭
今回発表予想(B)	19,000	720	250	190	11円92銭
増減額(B-A)	△1,200	△280	△150	△356	—
増減率(%)	△5.9	△28.0	△37.5	△65.2	—
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期通期)	24,534	849	218	202	12円72銭

#### 6. 平成23年3月期通期業績予想修正の理由

<個別>

平成23年3月期通期の売上高におきましては、20,200百万円に対し19,000百万円と△1,200百万円の差異となる見通しであります。

当社の主力となる戸建分譲事業につきましては、商品の収益性を重視し、より一層お客様に弊社住宅の利点をご理解いただき、将来性のある顧客開拓に繋げていくことも念頭に置き販売活動を行っていくため、通期では10棟強販売計画を下回る見込みであります。現時点においては、すでに年間計画販売棟数の7割強の申込を受け付けております。また、定着が図られてきた販売方法の「BY-CONCEPT」も、より一層充実したものへとシフトしていく予定であります。

収益不動産事業につきましては、当初計画通りの売上高となる見通しであります。なお、個人及び法人受注につきましては、他社との競合により、厳しい受注環境の状態が継続することを考慮し、年度の個人及び法人受注棟数は、

計画比それぞれ30棟前後下回る見通しであります。

利益面におきましては、戸建分譲事業では利益率が向上していることから、売上総利益が改善し順調に推移していく中で、引き続き販売費及び一般管理費等の経費削減に努めてまいります。そして、収益不動産事業では残る低収益性物件の早期売却に努め、個人及び法人受注では契約ベースでの受注量が順調に推移しているものの、今年度の売上は計画を下回る見通しから、営業利益は1,000百万円に対し720百万円と△280百万円の差異となる見通しであります。

経常利益につきましては、収益不動産事業において、低収益性の物件売却による有利子負債の圧縮が図られること等から、400百万円に対し250百万円と△150百万円の差異となる見通しであります。

当期純利益につきましては、資産除去債務の計上のほかに、税負担の増加により、546百万円に対し190百万円と△356百万円の差異となる見通しであります。

<連結>

主に連結財務諸表提出会社（当社）の業績予想の修正によるものです。

## 7. 配当予想の修正

当期は、期末配当として3円00銭を予定しておりましたが、前述の業績見通しを考慮し、慎重に検討を重ねた結果、経営基盤の強化のため内部留保を充実させることが優先課題であると判断し、誠に遺憾ではございますが、無配とさせていただきますと存じます。

株主の皆様には深くお詫びを申し上げますとともに、早期の復配に向け、経営陣、従業員が一体となり業績の向上に努めてまいりますので、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

	年間配当金（円）				
	第1 四半期末	第2 四半期末	第3 四半期末	期末	合計
前 回 予 想  (平成22年5月17日発表)	—	0円00銭	—	3円00銭	3円00銭
今 回 修 正 予 想	—	0円00銭	—	0円00銭	0円00銭
当 期 実 績	—	0円00銭	—		
前 期 (平成22年3月期)実績	—	0円00銭	—	0円00銭	0円00銭

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上